

Optics & Photonics Japan 2012 開催報告

伊藤 雅 英

(筑波大学)

第21回目を迎えた日本光学会年次学術講演会 Optics & Photonics Japan 2012 は、2012年10月23日(火)～25日(木)の3日間にわたり、東京都江戸川区船堀のタワーホール船堀にて開催された。本会場は区の施設であり、国際会議などにも多く使用されている定評ある会場である。1500 m²のホールをパーティションで4室に仕切って講演会場としたが、音漏れなどは一切なく、ゆったりとした会場で集中した講演会を催すことができた。

今回の講演会ではいくつかの新しい試みを行った。まず、シンポジウムを自主応募のみとして勧誘は行わず、数を減らし、一般講演を優先するようにした。また、プレナリーセッションを初日の17時～19時とし、それ以外は一般セッションを平行で行った。これにより、セレモニー的な催しは減ったが、同じテーマの平行セッションをなくすことができ、実質的に大会の充実が図られた。

プレナリーセッションにおいては、MOU (memorandum of understanding) を結んでいる OSA の前会長 Christopher Dainty 教授、SPIE の会長 Eustace L. Dereniak 教授による特別講演、および、紫綬褒章を受賞され、日本光学会とも関係の深い東京大学大学院情報理工学系研究科の石川正俊教授による基調講演「広がる高速画像処理の世界—ビジュアルフィードバックの新展開—」が行われた。

今回の OPJ では、講演申込者に分野をわかりやすくするため、これまで18あった分科分類を見直し、1. ナノ光学・ナノフォトニクス、2. 量子エレクトロニクス、3. 光学設計・光デバイス、4. 光計測、5. 情報光学・情報フォトニクス、6. 視覚光学・照明・光環境、7. バイオ光学・フォトニクス・医用光学、8. エネルギー・環境・グリーンフォトニクス、生活フォトニクスの8分類とした。こうした分科とは別に英語セッションを設け、1つのセッションにいろいろな研究分類の発表を集め、留学生同士が質問し合う場を作ることで、大きな盛り上がりがあった。なお、本年度は大会のテーマ(スローガン)は設定しなかった。

表1 講演件数.

	口 頭	ポスター	計
一般講演 (BP 賞対象講演)	181 (88)	57	238
ポストデッドラインペーパー	—	8	8
シンポジウム等	40	—	40
合 計	221	65	286

シンポジウムとしては、プログラム委員会企画の日韓シンポジウムをはじめとして、デジタルホログラフィーの分野横断的応用展開、偏光とイメージング、レーザーディスプレイ・照明と微小光学、レーザーと原子光学があり、集中した議論がなされた。

講演数は、増加を抑えたこともあり286件で、内訳は、一般口頭講演181件、一般ポスター講演57件、シンポジウム等40件、ポストデッドラインペーパー8件であった。参加者は、事前登録者303名、当日登録者213名、招待講演者15名で、実行委員を含めて556名であった。招待講演者は最小限とし、会員同士の議論を中心とするように試みた。例年より少ない講演数ではあったが、平行セッションも少なく、ゆったりと充実した講演会であったと思われる。

Optics and Photonics Japan ベストプレゼンテーション (OPJ-BP) 賞の応募規定についても見直しを行い、応募資格者を講演会開催年度の4月1日において満30歳以下の者とする事とした。エントリーは88件であり、これも例年より少なかったものの、レベルの高い講演が多く、審査にあたっては十分な議論が行われた。多くの審査員のご協力と委員による厳正な審査の結果、吉田洸平氏(東京農工大)、岸達也氏(大阪大)、佐々木佑太氏(千葉大)、中村友哉氏(大阪大)、豊田耕平氏(千葉大)の5名が受賞者に選定された。今後とも本賞の充実を図っていきたい。

また、日本光学会奨励賞の授与式と受賞記念講演、光設計研究グループによる光設計賞授与式と受賞記念講演も、



図1 招待講演者のスピーチ (懇親会にて).



図2 懇親会でのアトラクション.

表2 参加者数.

	一般会員	一般非会員	学生会員	学生非会員	招待講演者等 (有料)	計
事前登録	146	14	104	39		303
当日登録	105	28	27	29	30	219
招待講演者等	40	—	—	—	—	40
合計	291	42	131	68	30	562

例年通り行われた。記念講演はシングルセッションで行うのではなく、関連セッションの中で特別講演として行った。

併設展示会は、講演会場に隣接する会場を使うことで、参加者および展示者の交流が密になるように工夫した。展示会社は20社23コマで、その中の板橋区の出展には区内の企業9社の紹介があった。書籍展示は3社、カタログ展示は6社で、景気の低迷にもかかわらず数多くの企業に協力をいただいた。展示会場はメインの講演会場と同じフロアとしたため行き来も楽であり、ポスター発表の併設もあって、来場者数も多く、好評であった。2日目の来場者が少なく、プログラムとのさらなる連携を検討したい。

懇親会は会場を移動せず、講演会場にて行われた。参加者の内訳は、事前登録の一般52名、学生8名、当日参加の一般18名、招待講演者11名、出展企業から9名であっ

た。有料参加者は98名、無料招待者は8名で、総計106名であった。

今回は、18名の実行委員、早崎芳雄プログラム委員長(宇都宮大)をはじめ、15名のプログラム委員の多大なご尽力により、無事開催することができた。実行委員長として、ここに感謝の意を表したい。次回のOptics & Photonics Japan 2013は奈良県新公会堂(奈良市春日野町)を会場として、菊田久雄実行委員長(大阪府立大)と、斎木敏治プログラム委員長(慶應義塾大学)のもとで、2013年11月12日(火)~14日(木)に開催される予定となっている。ますます充実した講演会となることを期待する。

末筆になりましたが、会員の皆様方をはじめ関係各位のご支援のお陰でOPJ 2012が無事に盛況で開催できたことに、改めて感謝申し上げます。